

# 諏訪湖環境研究センター（仮称）における展示の考え方 <「あり方（案）」の概要>

## 「諏訪湖環境研究センター（仮称）」のあり方（案）の概要

- ✓ 平成30年から令和元年にかけて有識者等により開催した「諏訪湖環境研究センター（仮称）のあり方検討会」により諏訪湖環境研究センターのあり方についてまとめたもの。
- ✓ 「諏訪湖環境研究センター（仮称）展示設計等委託業務」においては、あり方（案）に記載する「学びのスペース」の目的を達成するための具体的な展示内容について設計等必要な業務を行う。

## ■ あり方（案）におけるセンターの目指す姿

- ◎ 課題の多い諏訪湖を中心に、県内河川・湖沼の水環境保全に向け、実態把握と課題解決のための**研究機能に重点**を置く
- ◎ 諏訪湖をはじめとする県内河川・湖沼等の水環境保全に関する**情報発信の拠点**とする
- ◎ 地域に根ざし、住民の**学びを幅広く支援**する
- ◎ 研究や学びの**ネットワークを形成**し、総合的に取組を推進するためのコーディネート機能を担う

## <情報発信・学び・連携の機能>

課題	機能・具体的方策
○住民の水環境への関心を高めるための情報発信の強化	○住民に向け水環境保全に関する情報を幅広く提供するとともに、研究成果を県内外に発信
○諏訪湖の環境等について総合的に学習するための仕組みと拠点の整備	○住民の学びを支援し、誰もが諏訪湖の環境や情報にアクセスできる仕組みと場の創出
○各機関が実施する調査研究、情報発信、環境学習等の連携強化	○様々な機関が実施する水環境保全に係る活動をネットワーク化し、コーディネートする機能を担う
○官民協働による更なる水環境保全の取組推進に向けたコーディネート機能の発揮	<b>&lt;具体的方策&gt;</b> ○諏訪湖をはじめとする調査研究や、各団体等が行う情報を一元管理し効果的に発信  ○ <b>住民が自発的に学習し交流できる「学びのスペース」の設置</b>  ○コーディネート役職員の配置や、センター運営に住民が参加できる仕組み（市民研究会）の整備

## ■ 住民が行う環境学習、環境保全活動への支援

開かれたセンター、地域に根ざしたセンターとして、県民の環境学習ニーズに応えるため、関係機関との連携強化の上、各種講座の実施や相談活動など、学びの支援の取組を充実する。

### ➤ 支援

- ・諏訪湖の環境や歴史・文化を統一的に学べる環境学習コンテンツの企画・開発
- ・サイエンスカフェ、出前講座の実施
- ・信州環境カレッジの活用（諏訪湖コースによる活動支援）
- ・住民が取り組む環境保全活動に対する専門的、技術的な助言・協力

## ■ 学びのスペース（展示）

児童・生徒や住民自らが諏訪湖の水質を調べたり、自発的に学習したり交流できる場として「学びのスペース」の設置

### ➤ 学びのスペースの機能

- ・水環境への理解を深めるために、県民一人ひとりが自ら学習・交流できる拠点
- ・体験学習や実験が出来る場、収集した資料や文献を公開する場
- ・過去の諏訪湖に関する文献や映像の展示
- ・VR、5G、ドローン等の先端技術を活用した映像コンテンツの展示
- ・バーチャルオフィス等による遠隔地と交流できる仕組みも検討

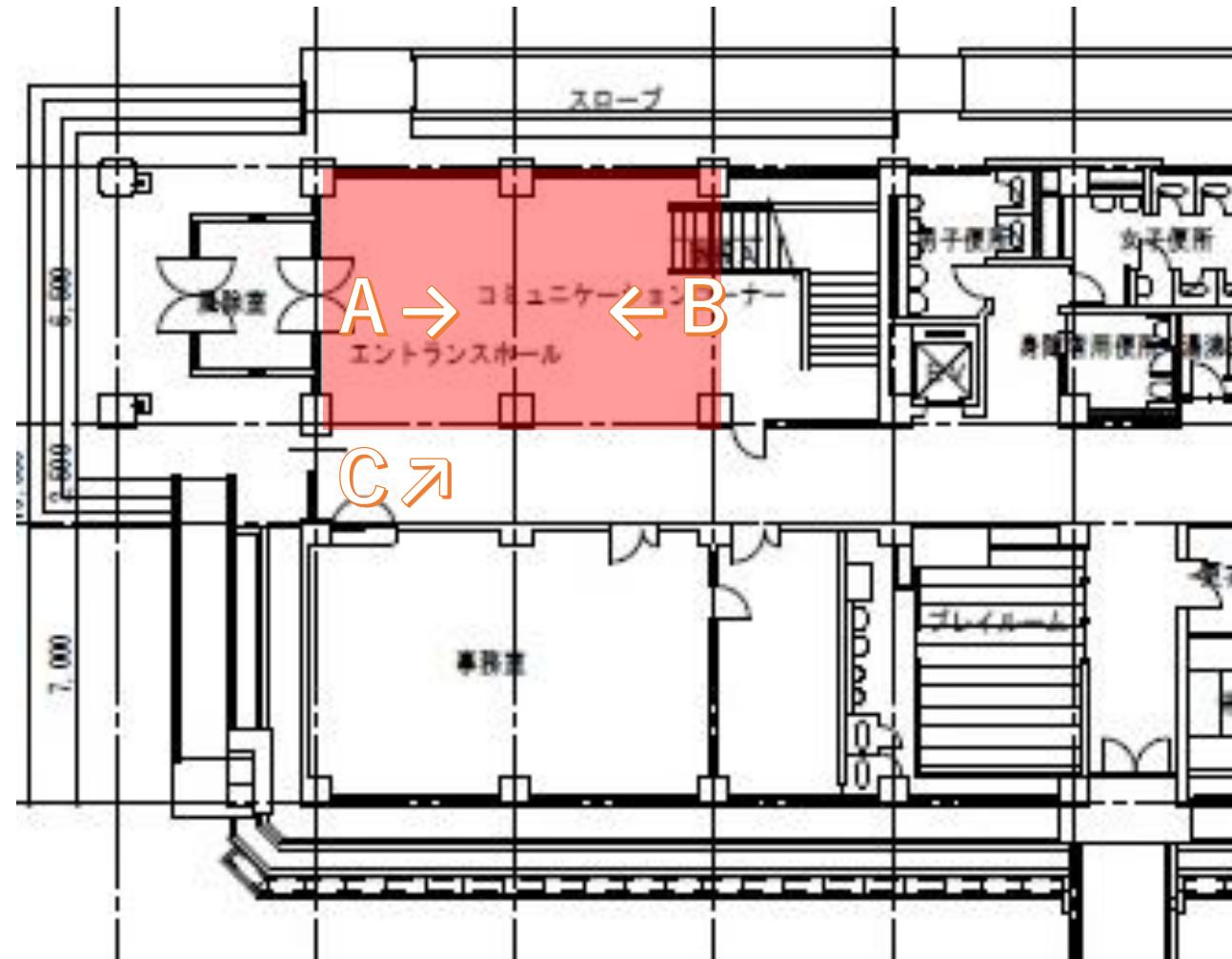


# 諏訪湖環境研究センター（仮称）における展示の考え方 <①エントランスについて>

## 【考え方】

- ✓ 展示エリアは、下図赤色部分（65㎡）※1階から2階への階段の下のスペースは含まない。
- ✓ 建物の入り口であり1階に入居する男女共同参画センターと共同で使用する事となるため、互いの展示物を容易に入れ替えることができる必要がある。

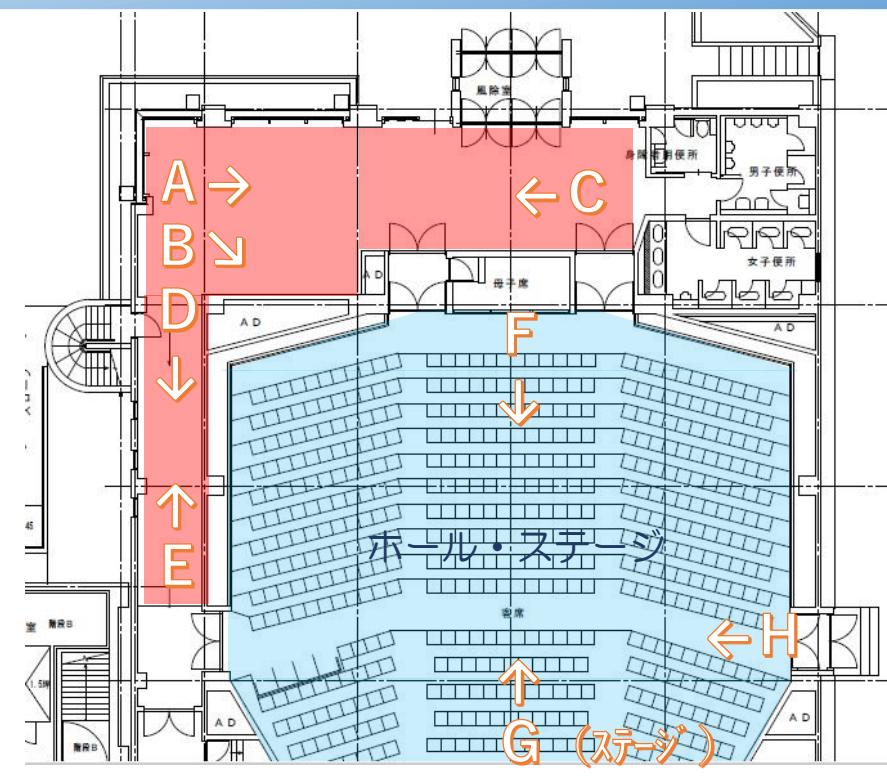
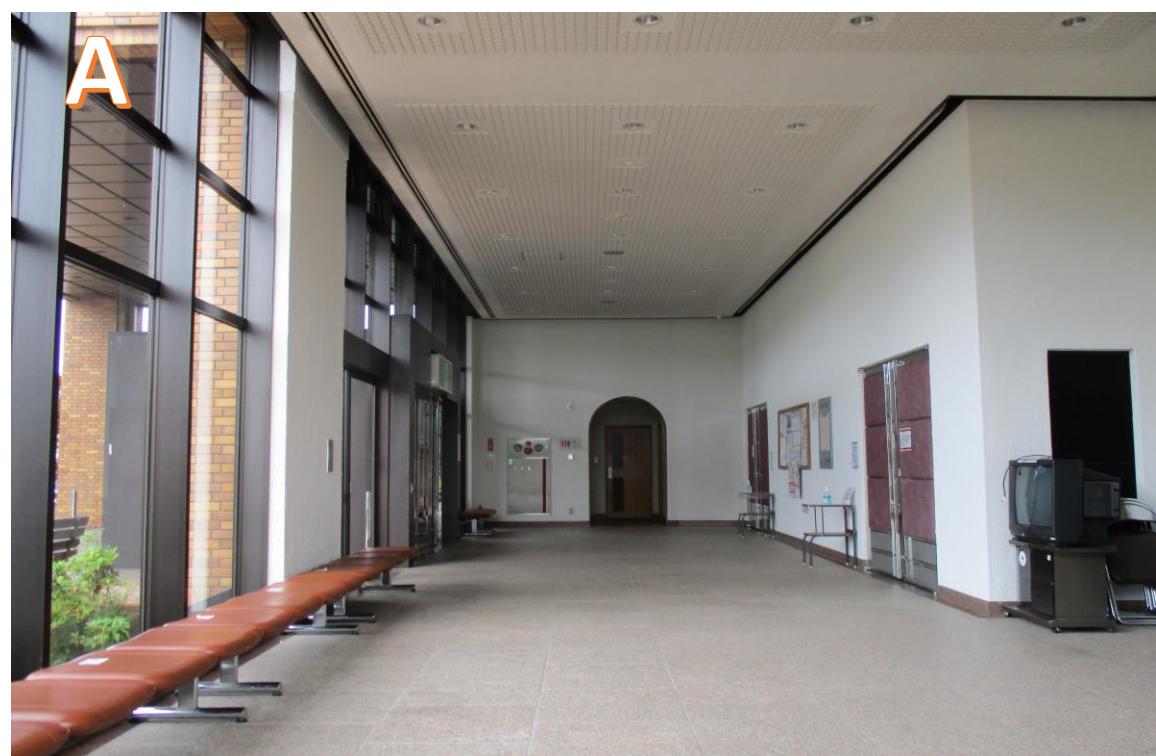
## 外観



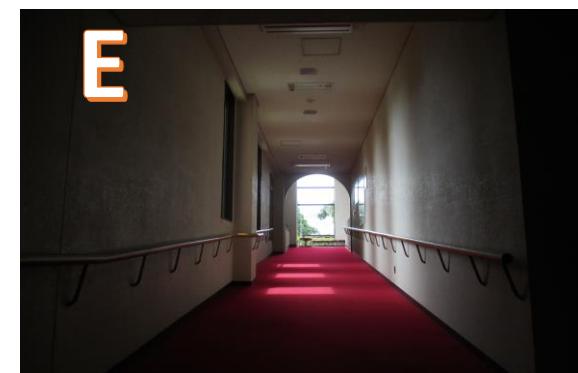
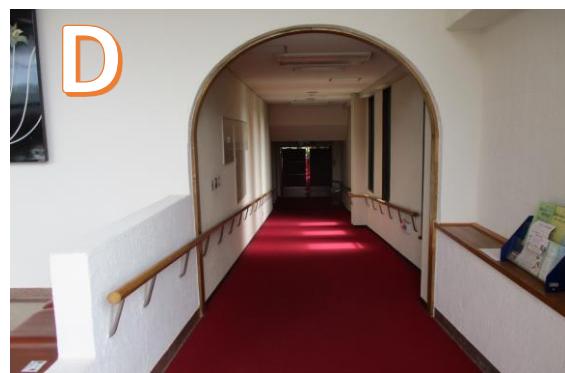
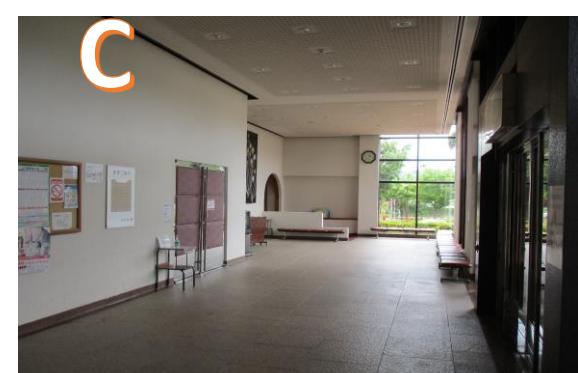
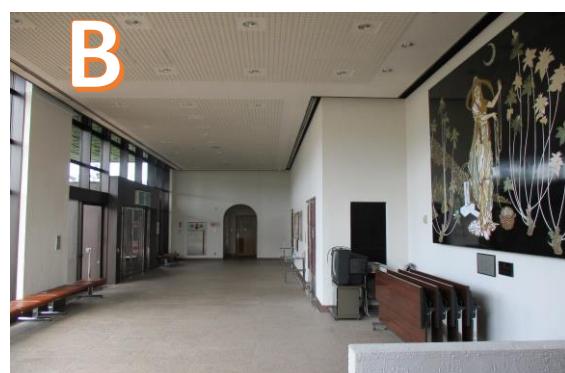
# 諏訪湖環境研究センター（仮称）における展示の考え方 <②ホールホワイエ等について>

## 【考え方】

- ✓ 諏訪湖環境研究センター専用展示エリアとし、エントランス及び本館からホールへの廊下部分を活用する。
- ✓ 展示は、誰もが水環境について分かりやすく学べる内容とし、内容の一部は職員が容易に更新できること。
- ✓ セミナー等（20名程度）を実施できるワークスペース機能があること（使用時のみ椅子を並べるなど、常設でなくてもよい）。
- ✓ ホール座席やステージは維持されるため、ホールにおいても学びのコンテンツを提供できること。



展示エリア  
(赤色部分)  
約137㎡



# 諏訪湖環境研究センター（仮称）における展示の考え方 <周辺施設との連携について>

## 【考え方】

- ✓ 諏訪湖周にある県や大学の研究機関、市町村や民間等の博物館・美術館などとの展示内容の差別化及び連携を図ること。
- ✓ 諏訪湖周はサイクリングロード及びジョギングロードの整備が進められており、それらの利用者による核施設の周遊が期待される。AR技術などを活用したアプリケーションなど、展示と関連し人々が実際に足を運びたいくなるような仕掛けがあるとよい。
- ✓ 特に「クリーンレイク諏訪」に隣接するビオトープは、センターの「学びの場」のひとつとして活用することを検討しており、センターにおける展示との情報のリンクが望まれる。

